

# 昭和44年度 和歌山県文化賞

かな もり よし お  
金 森 義 雄 (号 高山)

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県有田郡広川町

生 年：明治22年

「日本音楽史概説」、「都山流尺八史」(共著)、「三絃楽系統表」等数多くあり、幅の広い文化人である。

昭和41年秋、文化活動の功績により勲五等瑞宝章を受けている。

## ◎業績及び経歴

大正9年京都帝国大学医科大学大学院を卒業、翌10年医学博士となり、和歌山市に開業して今日に及ぶ。

氏は文化活動家として知られ、戦前、和歌山文化連盟を結成して初代理事長となり、終戦と同時に朝日新聞と提携して「和歌山音楽同好会」を設立、毎月一流音楽家を招いて演奏会を開催するなど文化活動に尽力してきた。特に、昭和23年以来ユネスコ運動の中心的存在となり、和歌山のユネスコ運動の生みの親として和歌山ユネスコ協会会長、日本ユネスコ協会連盟中央委員等の要職を歴任し、名実ともにこの運動の普及に尽くした功績は大きいものがある。このほか、和歌山文化協会設立の発起人代表として努力し、また、県社会教育委員、和歌山市教育委員会委員長等の要職について多年教育行政ならびに社会教育にも貢献している。

更に、氏は尺八の名手として知られ、明治42年中尾都山先生に師事してその道をきわめ、大正10年都山流楽士(楽理、作曲に通じた者に与えられる)となり、同12年大師範となって「竹琳軒」という最高の称号を受け、現在も都山流顧問として活躍している。昭和41年にはヨーロッパ各地で尺八演奏旅行もおこなっている。

なお、邦楽理論家、作曲家としてもすぐれ、大正3年以来現在まで月1回発行される「楽報」(都山流機関紙)には氏の音楽評論が欠かさず掲載され、その内容は高く評価されている。作曲も「清姫」、「秋風吟」、「荒磯」等約100曲に及び、著書も